

# 集落に繰りだす福祉 溶けこむ施設

5つの居場所をつくる



## 設計コンセプト

障害者就労支援をおこなう福祉事業者が、農村地域に第二の拠点を整備する計画。

滋賀県栗東市金勝地域は米どころとして知られ、京都や大阪に近い「便利な田舎」でもあるが、近年は人口が減り、農業の担い手が不足し、空き家が増えている。

本計画では、金勝地域・成合集落の空き家となった民家と農地を借りて改修し、ここで農業を営むほか、集落に繰りだし、近隣の農業を手助けする。地域の人々と相互の協力関係を築き、「農」と「食」を基軸に地域を元気にする。

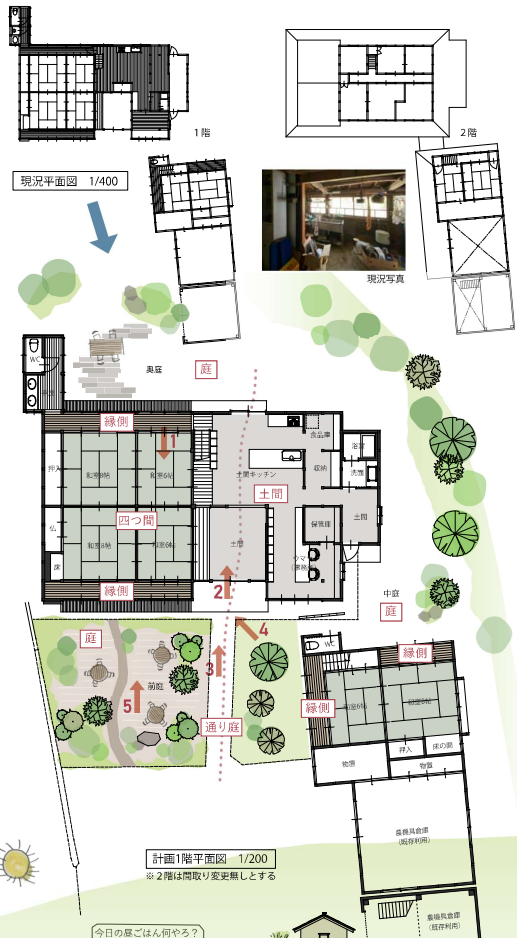
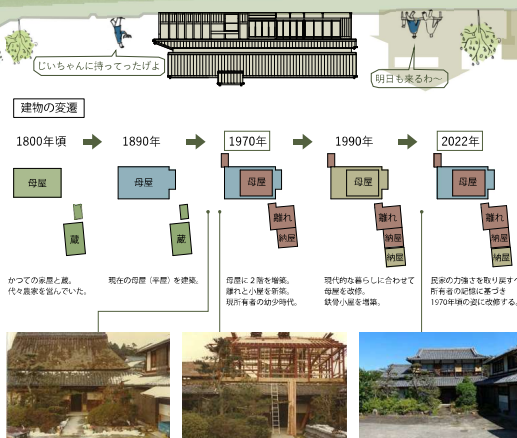
築130年の民家に手を加えられた履歴を調査し、今から50年前の姿に戻す。民家の類型として「四つ間」「土間」「通り庭」「縁側」「庭」を再構成する。福祉事業所として改修するのではなく、あらゆる用途に対応できる「寛容な家」を取り戻し、地域の人々にとっての居場所を兼ね備える。

農村での拠点づくりは、利用者と事業者が共に意見を出しあい、長年思い描いてきたことを実現させることである。(397文字)



計画配置図 1/400

計画断面図 1/400



計画1階平面図 1/200  
※2階は間取り変更無しとする



1 四つ間 四つ間を「開いて」交流したり週末レストランに利用するほか、「閉じて」休む。



2 土間 調理場と冬の仕事を兼ねていた土間を復元し、かつてのウマヤも復元する。



3 通り庭 所有者の記憶と痕跡に基づき通り庭を復元し、建物の内外を一体化させる。



4 縁側 出入口として、仕事場として、交流の場として、湿熱環境を整える場としての縁側。



5 庭 前庭・奥庭・中庭を縁側と一体的に再構築して、人の集まる場所とする。

